

1. 学園の理念と教育方針

1. 学園の理念

卒業生の幸せを約束する

人が学校で学ぶのは将来のためです。学校を卒業してからの人生のために入学します。

したがって私たちには、在学中に将来必要となるいろいろな知識・技術・生活態度を学生の身につけさせ、卒業後にそれをもとにして幸せになれるようにする責務があります。卒業してから何かの場面で、「鈴木学園で学んで良かった。」と学生が実感できる、そんな教育を目指します。

2. 建学の精神

孝友三心 学生訓

3. 教職員の心がまえ

- ①教育者としての誇りと責任を持つ
- ②メリハリのある教育を行う
- ③切り捨てない教育を目指す
- ④学生・園児にサービスする気持ちを持つ
- ⑤教育能力の向上に努める
- ⑥みんなで協力して教育を行う
- ⑦世の中に関心を持つ教員となる

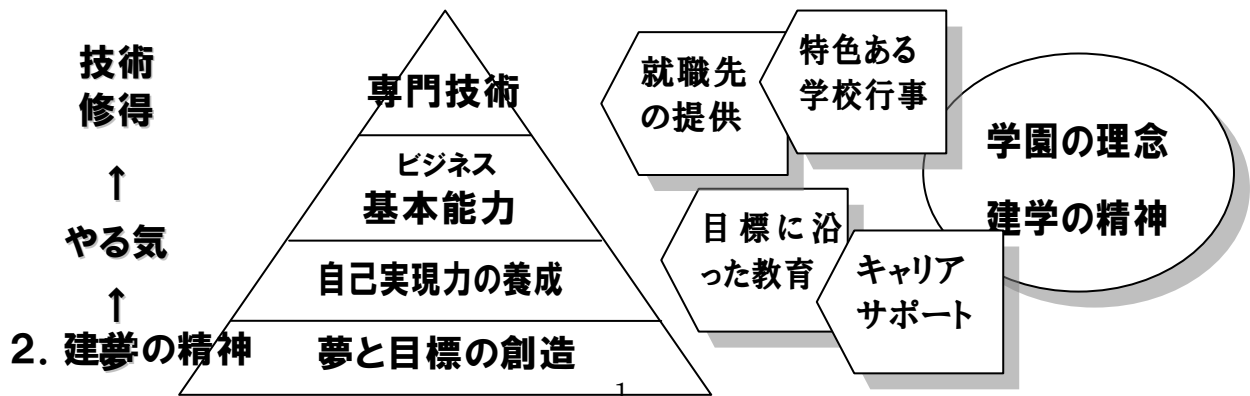
4. 重点活動

「なぜこの学校にこなければならぬか」の明確化

- (1)目標とする学生園児像の設定
- (2)目標に沿った教育の計画
- (3)キャリアサポート（専門学校）
- (4)学生に適した就職先の提供（専門学校）
- (5)特色ある学校行事の実施
- (6)保護者に安心感を与える教育
- (7)学校自己点検・評価制度の導入

専門学校の教育体系図

専門技術のみを教育しようとするのではなく、下からの積み上げを行う



◆「孝友三心」～ 親を思う心 友を愛する心 自分を見つめる心

①親を思う心

孝行という言葉は最近あまり聞かれなくなりましたが、自分を育ててくれた親を大切にすることは、人に親切にすること・人を大切にすることの第一歩です。

②友を愛する心

学校生活を通して友情を培うことも大切なことです。辛いとき・苦しいときに助け合うだけではなく、お互いを切磋琢磨しあえる友達を作ることには人生の中で非常に重要なことです。

③自分をみつめる心

茶道の大成者、千利休の言葉に「その道に入らんとする心こそ、我が身ながらの師匠なりけれ」というものがあります。

まず自分の目標をしっかりと持つこと、そしてその自分を見つめる心を常に持つ習慣を身につけておくことが、学ぶ上で何よりも大切なことです。

◆学生訓

一、私は〇〇〇(例:調理)をもって社会に奉仕することに誇りと責任を持ちます。

仕事はお金の為にするだけではありません。自分の仕事が人々の為になっていることを知りそれを誇りに思う、これがやる気につながっていきます。生き生きと仕事をするようになっていきます。

また、自分たちの仕事の結果が、人々の健康や命を守るのにつながっていることを自覚し、そこから仕事の責任の重さを知ることも重要です。

二、私は師弟の道を重んじ自己の陶冶と研鑽に努めます

本当の意味で「教わる」とか「教える」ためには、お互いに心がこもっていることが必要です。師を敬う気持ち、弟子をおもいやる気持ち、これがあって親身に聞いたり教えたりすることができるのです。学生は社会へ出た後、弟子になり師になっていきます。そのためにも師弟の道を重んじる大切さを教えましょう

そして学ぶのは辛く苦しいことも多いもの。人間は楽な方へ行ってしまうがちですので、常に自分を鍛えようとする気持ちを持つことが大切です。

三、私は学園の規則を守り、その学業に精励いたします。

どこに行っても規則は必ず存在します。規則を守ることは自分を押さえる術を知ることでもあります。規則は理由があって存在するわけですから、当然守るべきものでもありますが、教育の上では自制のできる心を養う意味もあります。

4. 重点活動

1. 「なぜこの学校にこなければならぬか」の明確化

(1)目標とする学生園児像

専門学校であれば新人として職場で即戦力となれること

- ・規律正しく、礼儀を知り、挨拶・返事がしっかりとできること
- ・働く意味と意義を知っていること
- ・自己実現力を持っていること
- ・基本技術を習得していること
- ・しっかりとした服装と姿勢を保ち衛生観念があること

(2)目標に沿った教育の計画

学校において最も大切なことは、年間計画の作成です。本校ではどんな目標のもとにどのような教科・行事等を組んでいくのか、**行き当たりばったりの教育にならないように**しています。

1年間の授業計画を立てて各教科の実施予定時間数を割り出します。各教科担当者は、その時間の中で目標とする能力を学生に与えるためのシラバス（syllabus：講義概要，授業の概要，要旨，時間割）を簡単に作成します。特に技術については、定着度を調べる方法や到達点なども決定しておくことになります。

(3)キャリアサポート

専門学校は職業に直結していますので、良い職業人を育てることが本務です。しかし最近の日本の若者は、世界的に見ても**職業意識が低く無気力な者が多い**とされています。

NEET（Not in Employment, Education or Training の略で、「職に就いていず、学校機関に所属もしていず、そして就労に向けた具体的な動きをしていない」若者）と呼ばれる人達が70万人近くいる現状がそれを最も顕著に表しているでしょう。

そんな時代「だからこそ」、キャリアサポートの本家とも言える専門学校の社会的役割が益々高まっていくと思われますし、逆に言えばこれができない専門学校は淘汰される運命にあります。

2. 挨拶・返事・掃除の徹底

社会は、最初の段階として技術よりも挨拶・返事・掃除がしっかりできる学生を望んでいます。この**3つがしっかりできれば評価も高くなります**。

挨拶と返事は日常的に習慣付けが必要なものとして、継続的に指導しています。

同様に、掃除の重要性を学生に理解させることも大切です。

これらは担任だけでなく、学校全体で取り組んでいます。

3. 夢と目標の創造

豊かな日本に育った世代は、取り立てて将来の目標設定をする必要を感じません。

したがって、まずは職種のすばらしさを理解させ、その職業に就きたくさせること、誇りを持たせることが第一歩となります。そしてそこから目標と夢を持たせるようにします。これを持たせることができれば、道はどんどん開けてきます。

逆に、目標が定まらない学生には、そこから上の教育をほどこしても積極的についてこない場合が多くなります。本校では「働く意味と意義」の理解を継続的に考えさせています。

4. 自己実現力の養成

ただ目標を描けば実現するわけではありません。目標に向かって進んでいくには方法があります。これを教育することで将来にわたって自己実現することが可能となります。

・各種イベントの開催、授業での取り組み

例) その職業の理解 → 夢・目標の創造 → 自己適正の把握
(仕事内容の説明、業界人の話) (適正テスト)
→ 目標実現計画 → ビジネスマナー等実務教育
(先輩の話)

・一般常識等の試験に必要な知識の習得

就職に際して一般常識試験が科せられる場合もあります。専門学校では一般教養科目が少なく、一般常識試験では不利になりますので、希望者に対して授業外で講座を設けるなどの対策を実施しています。

・就職先企業のニーズを把握し、教育に生かす。

私たちが良い学生を育てたと思っていても、もしかするとそれは自己満足であって、実際に企業が望む人材ではないかもしれません。

時代の流れが早い現在では、企業の必要とする能力も変わっていく場合があります。できるだけ業界の方々と話をするこゝで、どんな学生が望まれているのかを積極的に把握しています。

5. 学生に適した就職先の提供

キャリアサポートにより学生の就職への意欲・能力を高めると共に、学校側は就職先を提供できる体制を構築しておかなければなりません。

① 就職先の確保

常に新しい企業を開拓し、学生にとって将来設計につながる企業を確保するために、業界での情報収集や、各方面との人的交流、卒業生の労働状況の調査などを行っています。

② 学生に適した就職先の提供

大規模校ではできないことが、学校の主導による就職先の提供です。ただ求人票を掲示して学生の応募を待つという姿勢ではなく、学生の資質と企業の内容を勘案してその学生に適したところを紹介する、これは小規模校でなければできませんし、この点で小規模校が大規模校に勝るといえます。

6. 特色ある学校行事の実施

学校における行事は教育の一環として行われるものです。そして学生の楽しみであり、

日常的な授業ではできない教育の実践の場です。

それぞれの行事が明確な教育目的を持ち、終了後には効果の測定と反省を行い、次の行事や翌年度の行事に生かしています。

7. 保護者に安心感を与える教育

本校はほとんどの学生にとって「地元校」ということになりますから、学生だけでなく、保護者とのつながりも強いものでなければなりません。

しがたって、保護者が学校に来る機会を設け、**教員の顔が見える学校づくり**をしています。たとえば親を交えた三者面談、保護者を対象とした行事（料理講習会等）、授業参観日の設定などがあります。私たちも、保護者を交えた学生指導を行っていく時に、お互いが顔を知っていることが指導のしやすさにつながっています。

8. 学校自己点検・評価制度の導入

教育が自己満足で終わらないために、常に教育力の向上をするために、学生からの評価を取っておりますが、これを単なる調査に終わらせることなく生かしていかなければなりません。

学生の評価、自己点検評価、学校評価、授業相互評価、講師からの評価等種々の調査結果をしっかりと受け止めて次年度の目標に活かしていく、PDCA サイクルをしっかりと回せるようになることが大切だと考えています。